

6 令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	成果と課題	改善方策等	
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりに応じた指導と生徒の主体性を育む学習指導を推進する。</p> <p>②福祉マインドを培う教育活動を推進し、社会に通用する人間を育てる。</p>	<p>①ICT機器等の活用レベルを向上させ、特に「個別最適な学び」の実践をとおして、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。</p> <p>①生徒が主体的に企画・運営を行う行事へと確立する。</p> <p>②日野中央高等特別支援学校との相互連携と生徒相互の交流をより深め、「総合的な探究の時間」の内容を充実させることにより、教育活動全体を通して福祉マインドを育成する。</p>	<p>①ICT機器や指導法に関する校内研修会を通して、ICT機器の積極的な活用を促すとともに、生徒1人1台端末の活用方法について情報共有を図り、課題配信や提出など教科ごとに有効な活用方法の実践に結び付ける。</p> <p>①行事の実施等にあたり、ICT機器を活用し、生徒が主体的に情報発信や意見集約などを行うことにより、生徒会、学級、学年等の連携を図る。</p> <p>②総合的な探究の時間において、課題設定や探究活動を通して日野中央高等特別支援学校との相互連携を図り、生徒相互の理解をより深め、思いやりの心を醸成する。また、学校行事でも地域施設との交流を行い、2・3年生においても福祉マインドを培う機会を増やす。</p>	<p>①ICT機器・学習支援ソフトを活用し、「個別最適な学び」をとおして、生徒が主体的に学習できるよう授業改善への取組が確認できたか。</p> <p>①生徒会本部や各委員会等から生徒へ向けた発信を定期的に行うことができたか。</p> <p>②日野中央高等特別支援学校との相互連携をとおして、「福祉探究」の内容から課題を発見し、発表することができたか。また、学校行事を含め相互交流の機会を増やすことができたか。</p>	<p>①多くの授業でICT機器を活用し、主体的に学習できるような授業改善に取り組んでいる。</p> <p>②1学年の「総合的な探究の時間」の一環として、連携や交流を行い授業見学も実施した。</p>	<p>①研修会や教科会などをとおしてすべての授業で生徒がICTを利活用し、「個別最適な学び」が実践できるよう取り組む。</p> <p>②来年度から実施されるインクルーシブ教育実践推進校として、組織・制度の整備を進め、よりよい交流をすすめることにより、福祉マインドの涵養に努める。</p>	<p>①ICT機器の利活用が進み、また良く工夫された授業である。</p> <p>②相互連携はよくとれていた。インクルーシブ教育が始まるのでさらに強固なものにしたい。</p>	<p>①ICT機器の利活用は進んでいるが、生徒一人一台端末の利用方法が課題である。</p> <p>②日野中央高等特別支援学校との相互連携をとおして、生徒相互の理解が深まり、思いやりの心を醸成することができ「福祉探究」の目的を達成できた。</p>	<p>①生徒が各自の端末でできる教材等を共有するなど、改善を進める。</p> <p>②ICT機器の活用をより整えることにより、相互連携の深化が望める。さらにインクルーシブ教育実践推進校のスタートに向けてより綿密な計画を年度当初から行う。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高める。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図り、豊かな人間性と社会性を育む。</p>	<p>①日頃から生活態度（特にSNS関連）への注意を喚起し、規範意識を高める。</p> <p>②インクルーシブ教育の実施に向けた教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>①各グループ及び学年と情報を共有し、生徒の観察に努め問題行動等の未然防止に取り組む。</p> <p>①在学中に社会人（大人）になることをふまえたマナーの向上に取り組む。</p> <p>②校内外の専門家や教育機関と連携し、組織的な支援体制をさらに充実させる。</p>	<p>①学年集会等、時機に応じて、規範意識の向上に務める施策（講話等）が行えたか。</p> <p>②SC及びSSWも交えた全職員で教育相談体制を理解、確立できたか。</p> <p>②各生徒に応じた適切な支援を行えたか。</p>	<p>①規範意識の向上については、一定程度の成果をあげており、学年集会や外部講師招聘時の礼儀指導等を通して適切に取り組んだ。</p> <p>②現状の教育相談体制は良好に機能している。</p> <p>②ICT機器を活用し、生徒へ向けた発信を定期的に行い、また校内外の諸機関との連携を図り、適切な支援を行うことができた。</p>	<p>①SNS関連の問題行動については、今後も継続的に未然防止に努める。</p> <p>①今後も卒業年度に当たる3年生を中心にマナーの向上に努める。</p> <p>②インクルーシブ教育実践推進校における教育相談体制の位置づけについて検討する。</p> <p>②生徒のさらなる主体的な情報発信を促していく。</p>	<p>①南陵高校の生徒はあいさつができ、生活態度がよいと感じる。引き続き、規範意識を高める取組を続けてほしい。</p> <p>②ICT機器をよく活用し、個別最適な学びや生徒指導を展開している。</p>	<p>①一定程度の成果はあるが、SNSの問題については今後も継続的に指導していく必要がある。</p> <p>②現在生徒指導体制は有機的に機能している。</p>	<p>①まずは時機に応じて未然防止の発信をする。</p> <p>②日々の生徒の行動を観察し、問題行動の未然防止に努める。また、個に応じた支援がさらに充実するよう取り組む。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒の主体的な活動を通して、進路実現・自己実現を果たす力を育成する。 ②進路指導計画の充実を図る。	①3年間を見通した進路計画の下、生徒が希望の進路を自ら切り拓く姿勢を育成する。 ②希望する進路に対応した進路指導についてICT機器を有効活用し、生徒の主体的で適切な進路選択に向けた指導を推進する。	①定期的な外部試験により実力の定着を図り、Classiを効果的に活用し、生徒の進路実現を目指す。 ②Googleクラスルームを作り、効果的に情報提供を行い、LHR等で進路別ガイダンスを行うなど生徒の進路選択に資するキャリア教育を推進する。	①Classiを効果的に活用し、生徒の実力の向上、進路実現ができたか。 ②計画的にキャリア教育に取り組むことができたか。	①定期的にClassiへキャリア・ポートとして記録を残し、生徒の自己理解を深めた。 ②全学年一般選抜用のGoogleクラスルームを作り、模擬試験の受験を勧め、実力の定着を図った。	①Classiの記録を振り返り、進路実現に活用できるようにしたい。 ②模擬試験の受験希望者を一層増やし、結果に基づいた事後指導を充実させる。	生徒が希望の進路を自ら切り拓く姿勢を育成する力が育成できている。	①定期的にClassiへ記録を残すことができた。 ②模擬試験等の実施について、一層の充実を図る。	①Classiへの記録を総合型選抜等の受験に活用する。 ②模擬試験の意義を周知し、生徒の意識を向上させる。
4	地域等との協働	①地域との連携・協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。 ②豊かな人間性を育むために地域等の教育力を活用する。	①生徒が主体となって、地域との連携を図る。 ②地域貢献活動に取り組む。	①日野小学校と連携を図り、生徒が主体となって、図書を読み聞かせを実施することにより、信頼される学校づくりを進める。 ②生徒を中心に清掃活動に取り組む。	①生徒が主体となって計画的に取り組むことができたか。 ②生徒が清掃活動の意義を確認し取り組むことができたか。	①図書委員会及び社会福祉部が主体となって計画し、日野小学校キッズクラブにおいて、図書の読み聞かせを実施することができた。 ②各学年及び部活動有志の参加を通して清掃活動の他あいさつ運動など地域貢献活動に取り組んでいる。	①小学校における読み聞かせの内容について、検証を行う。 ②特定の時期に偏らずに年間を通して活動の均等化を図る。	南陵高校の生徒が地域清掃を行っていることに感謝したい。手話についても、今後交流を深めたい。読み聞かせも大変ありがたいと思っている。	①図書の読み聞かせは、地域から信頼を得ているが、交流範囲等の拡大が課題となる。 ②学校として地域清掃が定着している。しかし、授業や他の行事との重複の可能性があるので、均等化が達成できなかった。	①活動時間が連携先と異なるため、調整を密に行う必要がある。 ②学年ごとの実施を数クラスずつとし、清掃活動の他、学校周辺の危険箇所等を確認する機会としたい。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安心して通える、安全で信頼される学校づくりを進める。 ②教職員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。	①校舎内外の安心・安全な環境整備と清潔な学習環境を維持する。 ②職場環境の改善を図り教職員の働き方改革を推進する。	①校舎内外の環境を把握・確認し、他グループ等と連携し改善を図る。 ①生徒が主体的に取り組むことができるよう美化委員会を活用して校内美化・衛生に努める。 ①災害時の安全に配慮した防災計画を企画する。 ②教職員、PTA等から意見を集約し検討する。	①現状を把握し、適切に対応できたか。 ①生徒は主体的に美化活動に取り組むことができたか。 ①実際の災害を想定した避難訓練が実施できたか。 ②教職員等の提案・意見を集約し課題を洗い出すことができたか。	①校舎内外の美化及び安全等について、授業等を通して確認している。 ①DIG訓練及び避難訓練等を実施した。 ②引き続き、教職員等の提案・意見を集約する。	①校舎内の環境について美化委員をさらに活用し、美化を進める。 ①校外においても、ICTを活用したDIG訓練の実施に向けて検討する。 ②意見の集約に向けて、アンケートの実施を検討する。	①校舎内外の美化についてはよく取り組んでいるが、地域と共同したものも考えてもらえるとありがたい。	①美化活動や防災についての取り組みをよく行うことができた。避難訓練はさらに充実させたい。 ②ペーパーレス化などに組んだ。また、職場環境の改善のため、パソコンやロッカーの整備を行うことができた。職員数が増える中、職員室をいかに効率的に使用していくのが課題である。	①美化・防災について、教職員がさらに意識を高く持ち、生徒委員会の稼働を促していく。 ②職員室内でいかに効率よく業務ができるかを考え、物品の整備を引き続き行い、意見集約のためのアンケート等を実施する。